

令和7年度 全国学力・学習状況調査から

羽曳野市立駒ヶ谷小学校

【1】調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

【2】調査実施日・対象学年

令和7年4月17日（木）・第6学年

なお、今回お知らせする結果は、**学力や学習状況の一部分**であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などの**すべてを表すものではありません**。

今年度の「全国学力・学習状況調査の調査結果」（今年度は国語、算数・理科と児童質問紙を実施）から分析した、本校児童（6年生）の学力・学習状況についてお知らせします。

I、国語・算数・理科の教科の成果について

国語… 平均正答率が全国・大阪府の平均正答率と同等の結果となりました。その中でも、語句の意味や使われ方、知識・技能について、問う問題で高い正答率でした。特に、「時代とともに言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる」問題は全国と比較しても正答率が高くなっています。学校全体として、ミライシードなどで「基礎・基本」を重点的につけられるよう取り組んでいる成果が出ていると考えられます。

算数… 全国・大阪府平均を全ての項目で上回る結果となりました。特に、分数の計算問題や伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる問題は全国と比較しても高い正答率を記録しています。昼のチャレンジタイムでの復習や、やり直しの徹底を引き続き行うことで、基礎基本となる計算の力が定着してきています。

理科… 子どもたちは、実験で見たことを順序よく並べ、そこから「だから、こう言える」とまとめる力が伸びています。水のあたたまり方や、蒸発・凝結など身近な現象を、場面に合わせて言い換えたり、ふさわしい言葉を選んだりすることも上手になってきました。また、図や短い文章か

ら大事な情報（根拠）を見つけて、「だから～と考えられる」と因果関係で説明する場面が増えています。選択式や短い答えの問題では、必要な情報だけを的確に取り出して簡潔に答える姿が見られました。

Ⅱ、国語・算数・理科の教科の課題について

国語…今回、「読むこと」において課題がみられました。また、資料を読み取って、表現を工夫したり、集めた内容を分類したりといった問題の正答率は全国や大阪府の正答率と比較しても低くなっています。普段から資料から必要な情報を読み取り、表現することに力を入れていくとともに、他教科の授業でもグラフなどの資料を読み取る機会を作り、分かったことや比較を説明できるように指導していきたいと思います。

算数…数直線から分数を読み取る問題に課題がみられます。また、数と計算の領域の中でも計算問題の式について説明する問題では、正答率が下がる傾向がありました。グラフから目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかという問題が全国・大阪府と比べても正答率が低かったです。複数のデータの問題に触れる機会を増やしていくとともに、グラフやデータの活用についても他教科との教科横断的な学習を通して読み取れる力を養っていく必要があると考えます。

理科…発芽や電気を通す性質・磁石に引き付けられる性質などそれぞれの性質に当てはまるものを選ぶ問題では、「変える」「そろえる」「比べる」などの条件に合わせた実験の進め方を考える点に課題がありました。表や資料からわかることを「共通点や相違点」などで整理し、筋道を立てて結論付けるといった点も今後の課題であるといえます。更に記述式の問題では、「結果（見たこと）→理由（根拠）→結論」の順で、主語や言葉を省かずに伝わりやすい文章で表現することや図表などを使って根拠を示しながら説明することができるようになることが今後の大きな課題であると考えます。

総じて、算数より国語の正答率が低くなっているため、国語の読む力に対する苦手意識をなくしていけるような授業づくりを今後、進めてまいります。

また、理科のみに関わらず、筋道をたてて、根拠を示しながらわかりやすく伝えることができるようにまとめ方や話し方を重点に置いた指導を心がけていきます。

Ⅲ、児童質問紙について

1、学力調査について

国語については、問題を解く時間が、足りなかった児童が半分いました。

算数では、時間が余った児童が半分いました。

全体を通して、問題の文章が多く、必要な内容を読み取ることが難しいので読む力の育成が今後も必要だと感じました。

2、学校生活について

今回の質問紙から分かったことは、国語が苦手と感じる児童もいるが、国語が将来大切であると感じている児童が多かったです。

算数では、算数が好きという児童もあり、将来、算数が大切であると感じ、生活に活かせないかと考えている児童が多いことが分かりました。

理科や外国語でも高い意欲が国語、算数と同様にあることが分かりました。

授業全体を通してタブレットの導入により、自分のペースで学習できることやわからないことを調べることができ、友だちと共有・協力することで学習の幅が広がっていると感じる児童が多かったです。

2、生活習慣について

基本的な生活習慣は定着しており、自尊感情も高く、困っている人がいたら、助けてあげたいという児童も多いです。日頃から、たてわり班活動を通じて、下級生との関わりを大切にしているからだと感じます。

3、お家での過ごし方について

放課後や休日の過ごし方として、家族や友だちと過ごすことが多いという結果を得ました。加えて休日にも家や塾・習い事などで学習や読書・運動をする児童が多く、何事にも一生懸命に取り組む児童が多いことに驚かされました。また、図書館司書が配置されて、読書に親しむ児童がより増えています。お家でもいろいろな本に触れている児童が、国語の読み取りの正答率が高かったです。

しかし、平日、休日ともゲームやスマートフォンを長時間（3時間以上）している子の正答率が低かったです。そして、視力が低下している児童も多く、健康面や情報モラルの面でも『ゲームやスマホとのより良い付き合い方』を指導していくことも大切であると感じました。家庭でも使用時間などのきまりを見直していただけるよう、働きかけていきたいです。

まとめとして、大阪府や全国の児童の回答と比べてみると、本校6年生の児童は毎日朝食をとり、十分な睡眠時間を確保するなど、基本的な生活習慣がしっかりと身につけていることが分かります。また、学校のきまりを守ろうとする規範意識や、学級全体で協力しようとする姿勢も高く、子どもたちの良好な社会性がうかがえます。

子どもたちの学力は、特別な取り組みではなく、**日々の生活リズムや安心して
きる環境、そして学びに向かう前向きな気持ち**によって大きく伸びていきます。保護者の皆さまには、家庭での規則正しい生活や読書習慣、ICTの適切な活用を心がけていただき、学校と力を合わせて子どもたちの成長を支えていただければと考えています。

こうした成果は、保護者の皆さまや地域の皆さまが温かな気持ちで子どもたちの「育ち」を見守ってくださっているおかげです。子どもたちの健全な成長には、学校教育だけでなく、家庭や地域での支えが欠かせません。今後とも、変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。